報道発表 Press Release No: 367-22-43

2023 年 3 月発行

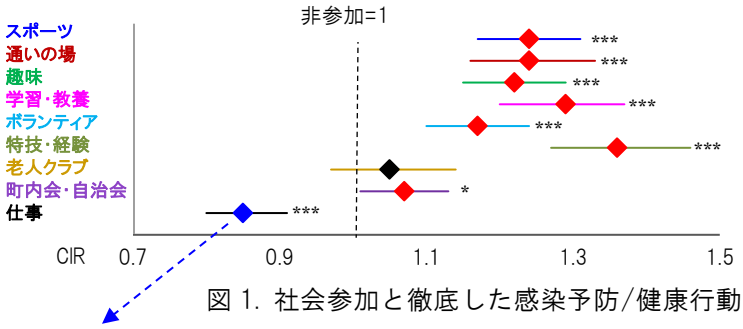
平時の社会参加が有事の感染対策に！？

コロナ流行前の社会参加と流行下の感染予防/健康行動

9種類中7種類の社会参加群で徹底した感染予防/健康行動
スポーツクラブ参加者は1.68倍，通いの場の参加者は1.50倍，コロナ下でも運動をする

高齢者約1万人を対象とした2019年度(コロナ流行前)，2020年度(コロナ流行下)の2時点の調査により，コロナ流行前の社会参加の有無と流行下の感染予防/健康行動の関連について検討しました。9種類中7種類の社会参加群で，非参加者群に比べて「徹底した感染予防/健康行動」が行われていました。特に，コロナ前にスポーツクラブに参加していた高齢者は1.68倍，通いの場に参加していた高齢者は1.50倍，非参加者よりもコロナ下で「ストレッチや運動」を行っていました。一方，働いている高齢者は働いていない高齢者に比べ，こうした行動を行っていないことがわかりました。平時における社会参加が感染症流行下の罹患リスクの低減，感染拡大防止，感染症以外の健康二次被害防止につながる可能性が示されました。社会参加のない高齢者，働く高齢者のリスク軽減に向けたアプローチが望まれます。

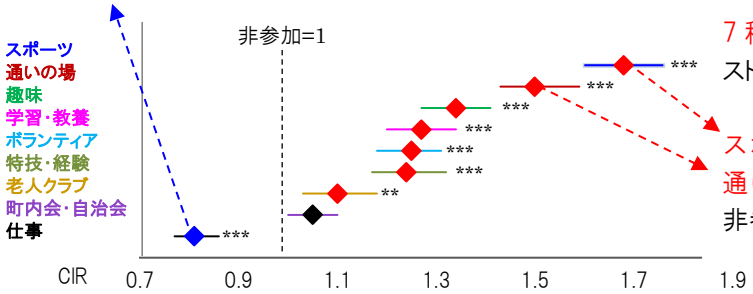
お問合せ先： 聖マリアンナ医科大学 予防医学教室 講師 木村美也子 mkimura@marianna-u.ac.jp



7 種類の社会参加群で，非参加群に比べて
1.07-1.36 倍，
徹底した感染予防/健康行動を実施

図 1. 社会参加と徹底した感染予防/健康行動

働いていた高齢者は働いていない高齢者に比べ
徹底した感染予防/健康行動，
ストレッチや運動をしていない



7 種類の社会参加群で，非参加群に比べて
ストレッチや運動を行う者が多く，

スポーツクラブ参加者は 1.68 倍
通いの場の参加者は 1.50 倍
非参加者よりもストレッチや運動を実施

図 2. 社会参加とストレッチ/運動の実施

CIR: cumulative incidence ratio 累積罹患率 *p<0.05; **p<0.01; ***p<0.001
＊は統計学的に意味があることを示しています。
また，2019 年時点の性，年齢，等価所得，教育，婚姻，独居，疾患の有無，人口 10 万人以上の特定警戒都道府県居住の有無，手段的日常生活自立度，うつの影響を統計学的に取り除いています。

■背景

新型コロナウイルス感染症(コロナ)は高齢者でより重篤になるリスクがあり，徹底した感染予防行動や，健康二次被害を防ぐための健康行動が重要となります。こうしたコロナ下の感染予防/健康行動と，これまで健康との関連が報告されてきた社会参加との関連については明らかになっていません。そのため，本研究ではコロナ流行前の社会参加の有無と流行下の感染予防/健康行動の関連を検証しました。

■対象と方法

日本老年学的評価研究(JAGES)の2019年度(コロナ流行前)，2020年度(コロナ流行下)の両時点の調査に回答した全国10市町の要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者10,523人を対象としました。目的変数は2020年度における9つの感染予防/健康行動(①こまめに手洗いや手のアルコール消毒を行う，②外出時にマスクを着用する，③ほかの人との間隔を最低2m空ける，④こまめに部屋の換気又は除菌を行う，⑤咳エチケット，⑥ストレッチや運動を行う，⑦人が集まる場所を避ける，⑧栄養のある食事をとる，⑨外出を控えることや外出時のマスクの着用を他人に勧める)の有無としました。また感染予防/健康行動の徹底度を検討するため，各項目の実施の有無(0，1)の合計値を徹底群(≧7)，非徹底群(＜7)として目的変数に加えました。説明変数は2019年度の9種類の社会参加(ボランティア，スポーツ，趣味，学習・教養，特技や経験を他者に伝える活動，老人クラブ，通いの場，町内会・自治会，収入のある仕事)です。調整変数は2019年時点の性，年齢，等価所得，教育，婚姻，独居，疾患の有無，人口10万人以上の特定警戒都道府県居住の有無，手段的日常生活自立度，うつとし，ロバスト標準誤差を用いたポアソン回帰分析，またはロジスティック回帰分析を行いました。

■結果

9種類中，7種類の社会参加群で，非参加群に比べて徹底した感染予防/健康行動が多くみられました。中でもコロナ前にスポーツクラブに参加者していた高齢者は1.68倍(CIR:1.68, 95%CI:1.60-1.76, p＜0.001)，通いの場に参加していた高齢者は1.50倍(CIR:1.50, 95%CI:1.43-1.59, p＜0.001)，非参加者に比べてコロナ下でストレッチや運動を多くしていました。ただし収入のある仕事に従事していた高齢者は従事していなかった高齢者に比べ，感染予防/健康行動を徹底しておらず，ストレッチや運動もしていませんでした。

■結論

コロナ流行前に社会参加していた高齢者ほどコロナ下により感染予防/健康行動に努めており，平時における社会参加が，感染症流行時の罹患リスクの低減，さらに感染拡大防止，健康二次被害防止につながる可能性が示唆されました。社会参加のない高齢者，働く高齢者のリスク軽減に向けたアプローチが望まれます。

■本研究の意義

高齢者の社会参加がコロナというかつてない感染症流行下の感染予防行動/健康行動と関連していることが明らかにされ，社会参加が平時だけでなく，有事においても高齢者の健康に寄与する可能性を示すことができました。

■発表論文

Kimura M, Ide K, Sato K, Bang E, Ojima T, Kondo K. The relationships between social participation before the COVID-19 pandemic and preventive and health-promoting behaviors during the pandemic: the JAGES 2019-2020 longitudinal study. Environ Health Prev Med. 2022;27:45. doi: 10.1265/ehpm.22-00154.

■謝辞

JSPS科研(JP15H01972,19K20909,20H00557, 22K13558),厚生労働科学研究費補助金(H28-長寿-一般002,19FA1012,19FA2001, 21GA0101, 22FA2001, 22FA1010)， 国立研究開発法人日本医療開発機構(AMED)長寿科学研究開発事業(JP18dk0110027, JP18ls0110002, JP18le0110009, JP20dk0110034, JP21lk0310073, JP21dk0110037, 22lk0310087h0001),国立研究開発法人国立長寿医療研究センター長寿医療研究開発費29-42,30-22,20-19,21-20),国立研究開発法人科学技術振興機構(OPERA,JPMJOP1831)，革新的自殺研究推進プログラム(1-4),公益財団法人笹川スポーツ財団,公益財団法人健康・体力づくり事業財団,公益財団法人ちば県民保健予防財団，公益財団法人8020推進財団令和元年度8020公募研究事業(採択番号:19-2-06)，公益財団法人明治安田厚生事業団等の助成を受けて実施しました。